

主に指導する教科・領域 音楽

実 態	目 標	
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて行うことや、苦手なことは、避けようとする。 ・安易にできることや経験したことに対しては、自信をもって取り組むことができる。 ・手が小さく、薬指と小指の力が弱い。 ・親指、人差し指を使って物をつかむことができない。 ・演奏中に息つきやタンギングを行うと、指がリコーダーから離れてしまうことがある。 	長 期	リコーダーの演奏ができる。
	短 期	リコーダーの「ファ」「ソ」「ラ」の指使いを覚えて曲を演奏することができる。
	手 だ て	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ファ」「ソ」「ラ」の音域のみを使う曲を演奏する。 ・指使いを覚えるために、色シールを3色用意し、楽譜と指に同じ色のシールをはり、色で指使いと階名を対応させる。 		

< 実践事例 > 単元「友達と合奏しよう」(児童I)

① 3年生になって、リコーダーの練習を始めた。

最初は、肩に力が入ってしまい、音の強弱を意識して吹くことができなかった。

音階の練習	○レ (高いレ)
	○ド (高いド)
	○シ
	○ラ
	○ソ
	○ファ

までは、1学期に吹くことができるようになった。

覚えた6音中、2音を使う練習曲(4小節)を演奏し、タンギングができるようになった。

手が小さいことと、右手薬指と小指の開く角度が狭いので、低い「レ」「ド」の穴に指が届かない。また、「ファ」「ミ」を演奏しようとする左手の「ラ」「ソ」の穴をふさぐ指が動いて空気が漏れてしまう。

② そこで、「ラ」「ソ」「ファ」の三つの音階のみの曲を完全に演奏できるように練習して、長い曲が演奏できたという充実感、達成感をもたせようと以下の曲を題材に選んだ。



③ <世界の約束>～映画「ハウルの動く城」のテーマソング～の楽譜に階名を書き込み、色シールをはった。使用する指にも対応するように音と同色のシールをはって、指使いを滑らかにするように工夫した。

④ 「ファ」の音を吹く時、左手の人差し指が穴から外れてしまうことがあった。その都度、「ド」「シ」「ラ」

「ソ」の運指を繰り返し練習させて、左手で穴をふさぐ感覚を保ったまま、「ファ」を出すように言葉掛けをした。

⑤ 「ラ」「ソ」「ファ／ソ」「ラ」「ソ／ソ」「ファ」「ソ／ラ」を四分音符で続けて吹く時に遅れがちになるので、その前に十分息を吸って、吹くように言葉掛けをした。

⑥ 正しく四分音符が表現できるようにメトロノームを使用した。



評 価	今後の課題
<p>階名とリコーダーをふさぐ指が同色のシールなので、楽譜を見ることに興味をもって取り組むことができた。</p> <p>「ラ」「ソ」「ファ」のパートが、主旋律を響かせることが分かり、協力して演奏する楽しさが分かった。肩の力を抜いてリコーダーを演奏することができるようになった。</p> <p>「ラ」「ソ」「ファ」の3音がしっかりした音で出せるようになった。</p> <p>左手と右手にバラバラに力が入ってしまいがちだったが、同じように同時に力を入れることができるようになった。</p>	<p>「ミ」「レ」「ド」の音を出す時、指が浮いてしまったり、ずれてしまったりすることがある。指の開きや動きを柔軟にする体操を行っていきたい。</p> <p>いろいろな曲を練習して、演奏できる曲目を増やしたい。</p> <p>リコーダーを演奏する楽しさやリコーダーを演奏できるという自信をつけさせたい。</p>